



いとう



海援隊旗(二色きの旗)

http://www.ryoma-kinenkan.jp

天 空 TENKU KAIKATSU 海 闊

令和2年度 第1回企画展 幕末と船 — 万次郎から龍馬へ — 時代へ漕ぎ出した船を考える

幕末は、狂歌「泰平の眠りを覚ます上喜撰(上喜撰)たつた四杯で夜も眠れず」に象徴されるように、嘉永6(1853)年6月、開国を迫る米國ヘリー艦隊の浦賀来航。そして翌年の日米和親条約締結以降を言うのが一般的である。

英語で言うところの「幕末」は、「End of Edo period」(江戸時代末期)「The last days of the bakufu」(幕府最後の日々)「Closing days of the Tokugawa Shogunate」(徳川將軍の終末)などと分かりやすい。慶応3(1867)年10月大政奉還、翌月の王政復古の大王令から、戊辰戦争へと終末を迎え、明治という新しい時代へと移っていく。

幕藩体制から近代への転換を推進したものとして、船。中でも蒸気船の力は大変大きい。ペリー艦隊の黒船4隻のうち2隻は蒸気船で、和式風帆船しか知らない当時の日本人が驚いたことは周知であろう。日本が太平の眠り(鎖国)にあったとき、世界は大きく躍進していたのである。圧倒的な西洋造船技術を目の当たりにした幕府のあわてようととともに、諸藩は蒸気船建造や入手に乗り出した。土佐藩も例外ではない。

そんな時代の到来直前、漂流民万次郎こと中濱万次郎は、仲間とともに帰国する。土佐沖を漂流した後、無人島から救助された万次郎は米國捕鯨船乗組員としてアメリカ捕鯨全盛期に世界の海で働いた。そして10年を経て、自らの意思で帰国した。鎖国当時海外からの帰還者は処罰の対象であったが、万次郎はその知見を欲した藩や幕府によって通訳や翻訳、近代捕鯨、何よりも体得した民主主義を国内に伝えていく役目となった。

そんな万次郎の漂流譚や世界情勢を、土佐藩絵師・河田小龍から聞いた坂本龍馬はのちの海援隊構想へとつなげていったとも思われる。過酷な労働である米國捕鯨船員からサムライになった万次郎。海運業や開拓事業をめざし、「世界の海援隊」を夢見た龍馬の二人に共通するのは「船」である。船は幕末という時代を大きく前進させた。本展では、幕末を動かしていた船の中でも、中濱万次郎と坂本龍馬にゆかりのある船を紹介し、幕末という時代を動かした船について考える。

前田 由紀枝



錦絵「海上安全万代寿」琴平海洋博物館所蔵

◆展示資料

◇白帆注進外国船出入注進(いろは丸の図) 〓(公財) 鍋島報効会所蔵(佐賀市) 〓佐賀県立図書館寄託 〓西洋軍艦構造図説(伝・龍馬所持) 〓琴平海洋博物館所蔵(香川県) 〓ペリー横浜上陸の図 〓同/神戸村操練所絵図 〓同/函館実地明細絵図 〓同/土佐藩洋式帆船「曙雲船」・「咸臨丸」・「いろは丸」 〓いずれも模型・個人所蔵/他

◆企画展関連企画

■講演会 「いろは丸と明光丸の急用」
講師 徳島大学名誉教授 洪谷雅之氏
日時 令和2年5月24日(日)
13時30分〜15時
会場 新館1Fホール
定員 100人(無料、受付先着順)
■担当学芸員によるギャラリートーク
日時 ①5月16日(土) 14時
②6月13日(土) 14時

◆企画展小冊子

(A4版フルカラー28頁) 500円にて販売

「長宗我部遺臣と土佐の郷士」展 まもなく終了

昨年12月より開催してきた企画展「長宗我部遺臣と土佐の郷士」が、好評のうち4月5日に終了する。展示の成果などについて、担当者として感じたことを記したい。

充実の展示資料

展示資料は、前後期で一部入れ替えをおこない、あわせて36点であった。時代としては戦国期から幕末期までを扱ったので、約300年の内容を30点あまりの資料で説明したことになる。テーマの性格上、文献資料（古文書類）が多くを占めることになったが、郷士の由来と基本的性格、そして龍馬の時代につながる身分制度の変遷や自己認識などについて、ある程度の説明が尽くされたのではないかと考えている。また、それ以外に、長宗我部元親の初陣の際使われた（つまり、一領具足の人々も進退の合図としてこの音を聞いた？）と伝わる陣太鼓や、郷士の家に伝わる馬具など、一領具足・郷士の「兵」の面に思いを馳せることのできる実物資料も紹介することができた。

構成の特徴

ところで、今回の展示では、あえて章立てをしなかった。いわゆる「長宗我部時代」と「山内時代」との間に境目を見せたくないという思いがあったからである。展示の内容を章で区切るとなれば、まずは大きく、関ヶ原以前の「長宗我部時代」と江戸時代すなわち「山内時代」とで分けざるを得ない。土佐の歴史認識において、この両時代がいわば対立関係にあったという考えはいまだ根強いと考えられる。しかし、この認識は必ずしも事実在即さない先入観にもとづく部分も大きく、その再考を促すことも本展の狙いの一つだった。以上のような点をふまえ、あえて章の別を明示しないことで、一領具足（長宗我部時代）から郷士（山内時代）へとという歴史の変遷を、一連の流れとして提示できたのではないかと考えている。その反面、章を設けないことで、視覚的な分かりやすさを放棄してし

反響の大きさ

まったことは否めないだろう。解説パネルや会場で配布したリーフレットでの説明を充実させることでこれを埋めようと心掛けたが、はたしてこれが最善の方法であったのかは、実際にご覧いただいた方々の評価に委ねるほかない。

関連イベントとして、2月15日に講演会を実施した。浦戸城の紹介も本展の重要な柱として位置づけたが、担当者の力量不足により、城郭の説明で本来必須である考古学の成果を十分に盛り込むことが叶わなかった。この点を専門家に委ねる意味を込めて、土佐の城郭に精通した松田直則氏（高知県立埋蔵文化財セン

ター所長）を講師に招いた。予想を超えるペースで申し込みがあり、開催1か月前に早くも定員に達したことは正直なところ意外であった。講師の知名度はもちろんのこと、演題である「長宗我部氏と浦戸城」というテーマそのものに、それほど必要があったということだろう。また、ギャラリートークにおいても多くの質問・意見が出されるなど、参加者の関心の高さがうかがえたことは、担当者として大きな喜びであった。

高山嘉明



展示風景。「郷士」を通じて、戦国期と幕末期の資料が並んだ。

小冊子と会場配布リーフレット。展示内容をまとめた小冊子は、引き続きミュージアムショップで購入可能。



昨春秋の特別展『維新十傑』展で、現存する龍馬の佩刀五振りすべてを展示することができた。これは、ここ数年ずっと抱いていた構想だったが、海辺の博物館である当館にとって刀の借用展示はかなりハードルが高く、新館だからこそできた展示だった。

鉄が塩の影響で錆びることは、周知の事実である。当館の立地条件はかなり厳しく、台風など南風の強い日に、本館の屋上から海岸線を眺めると、空中に舞っている塩を肉眼ではっきりと見ることができ、これが鉄に付着すると錆びてしまうが、正確には塩が鉄を錆びさせているのではない。鉄に付着した固形の塩は、空気中の水分を呼び寄せ溶ける。その水と空気中の酸素が鉄と化学反応を起こして錆びさせてしまうのだ。また、鉄以外に付着した塩も、空気中の水分によって溶け、ベタベタして埃を集めてしまい、その埃が虫の発生要因となる。

そのため、新館を建てる際、塩害を防ぐことはかなり重要な要素だった。新館の最初の設計図では、館の南に駐車場があるため、建物の南にも出入口があった。車での来館者のためには欲しい出入口だが、塩の流入を考えると避けたかった。そのため、来館者の出入口は北からだけとした。また、出入口に風除室を設け、二重扉にすることも必須だった。本館は最初の扉を入っ

て直角に曲がって、ある程度距離を置いて次の扉があるのが理想だが、スペースの問題からそれは断念せざるを得なかった。

そして、各展示室を正圧に保つことも必須である。人の動きによって風が起り、風に乗って館へ入ってきた塩は、一階エントランスや二階ロビーにわずかながらも漂っている可能性がある。また、ロビーには建物から出るアンモニアなども漂っている。それらを展示室へ入れないためには展示室を正圧に保つことが必要である。閉館時に水蒸気を使って何度か試したが、当館の展示室は正圧に保たれている。各展示室の出入口でわずかな水蒸気を生じさせて、水蒸気がロビー側に流れて行けば展示室の方が正圧という証明になる。逆に展示室の方へ水蒸気が流れるようでは負圧である。

さらに、新館にとつて最も重要なのは、空調機に取り付けている除塩フィルターである。当館は比較的来館者の多い館で、常に外気を取り込まないと展示室の二酸化炭素濃度が上がる。その外気取り入れ口に除塩フィルターを設置している。

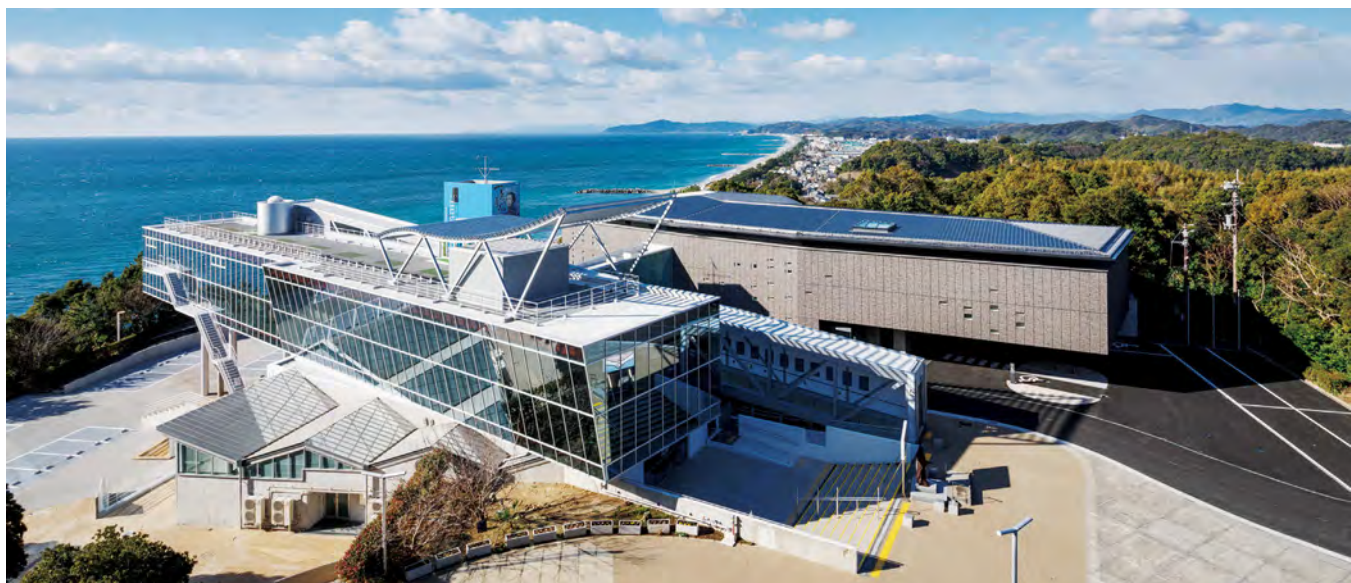
そして、展示ケースは、もちろん気密性の高いエアタイトケースである。

これだけ手を尽くしても、新館オープンからしばらく様子を見なくては安心

できなかった。本当に塩の影響はないか。これは運営しながら確認を続け、塩害は無いと確信できるまで一年以上かかった。確信が持てるまでは、刀身に油を付けたままで展示を行い、新館内のあらゆる鉄製部分に変化がないか観察を行ってきた。油を付けたままの展示は、見た目が悪く、油が切っ先に溜まることもあるが、「水と油」という言葉があるように、刀身の表面に油膜を作っておけば、もし塩が付着しても空気中の水分が刀身に付着することはない。

長時間かけて館内に塩害が無いことを確認し、昨春秋の特別展で、当館では初めて油を落とした刀の展示を行った。手を尽くしたつもりでも、特別展の間は不安な日々で、展示中は毎日、変化がないかを確認した。幸い約二ヶ月間何事もなく終わったため、これから少し安心して刀を展示できそうだ。

先日、後学のために奈良県の春日大社へ行ってきた。国宝の「太刀 銘 安綱」（通称「童子切」）などを見るためである。しかし、刀を見る、というより、展示方法や展示環境の方に目を奪われていた。色々勉強になったことも多く、今後、当館で刀を展示する際には取り入れてみたいこともあった。



手前＝本館・奥＝新館

龍馬の手紙

06

何も別ニ申上事なし

(慶応二年七月二十八日 三吉慎蔵宛)

「何も別ニ申上事なし」(特に何も言うことはありません)。薩長盟約締結後の寺田屋事件で、龍馬とともに窮地を脱した長府藩士の三吉慎蔵に宛てた手紙の書きだし。文字どおりであれば、この後に何も文章が続かないはずだが、龍馬の場合そんなわけにはいかない。

慶応二年(一八六六)六月、第二次長州出兵に伴い、小倉口の戦いにユニオン号(桜島丸・乙丑丸)を率いて参戦した龍馬。長州勢に勝利をもたらした一方、ユニオン号を萩藩へ引き渡したため、乗り換える船もなく亀山社中の活動が滞ってしまった窮状を慎蔵に訴えている。

水夫らに泣く泣く暇を出しても、大多数は死ぬまでどこまでもついて行くと言うので、困りながらも長崎へ連れ帰ったこと。また、長崎では幕府の役人がお金で誘っても、頼もしいばかりで出て行く者がいなかったことを報せた。そして、最後に龍馬は、長府藩が海軍を創設した際に、水夫たちを雇い入れて欲しいと懇願している。

慎蔵を通じて木戸貫治(孝允)へ送った前日付けの手紙では、主に薩摩藩や幕府の情勢を伝えており、趣が異なっている。龍馬が慎蔵だけに苦境を語っていることから、二人の強い絆をうかがい知ることができる貴重な手紙といえるだろう。

…と綺麗に結びたいところではあるが、今回の注目点は「何も別ニ申上事なし」。平穏で特に何も無い時、人は手紙をわざわざ書くことが少ないでは、この一文に何か意図があったのだろうか。

日本郵便のHPでは、手紙を書くときのポイント(プライベート編)として「特に用事はないのですがお便りしてみました」などと書けば、相手に余計な気遣いをさせずにすむと紹介している。

龍馬が苦境を赤裸々に語った背景には、社中の人材処遇があった。伊予大洲藩へ水夫・蒸気方を各三人派遣した営業実績について慎蔵へ追加で伝えており、長府藩への売り込みに余念がない。「何も別ニ申上事なし」は、オフィシャルな話へスムーズに移行させ、自然と慎蔵の関心を惹くために、絶妙な枕詞だったのではないだろうか。

田中洋一
(下関市立歴史博物館学芸員)

私の
おすすめ
No.6

「海の見える・

ぎやらしい」

～自然とアートを楽しむ空間～

今回は「海の見える・ぎやらしい」です。

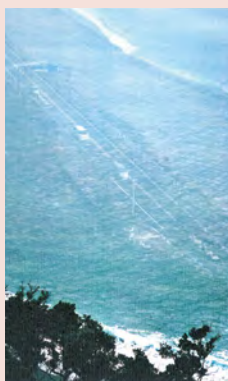
記念館を訪れたことがある方なら、本館2階の南突端にある太平洋を一望できる場所をご存じかも知れません。新館で龍馬の歴史的世界をたっぷりご覧いただいた後、連絡通路を渡り、本館幕末広場をご堪能いただいた最後に足を向けていただく場所として、海を眺めながら龍馬に因んだアートも楽しんでいただける空間が存在します。年2回の企画展示以外の期間は、当館所蔵の作品を、常時展示しています。観覧に疲れたらもちろんベンチで暫し休憩していただくことも出来ます。

その中で、展示作品のほかに四季折々楽しめるポイントをいくつかご紹介したいと思います。まず、ぎやらしいから海に向かって左側(東のガラス面のコーナーに近い所)に「海の道」が見えます。春から夏、海の色が面々と変わり輝く海の中を、車が走っていく光景が幻想的に浮かび上がります。夏から秋にかけては台風シーズン。台風の時ここから見える波の造形は、まるで生き物です。こんな間近で風や

波の音と共にその姿をスリリングに体感出来るなんて、ちよつと不謹慎かもしれませんが必見です。晩秋から冬の夕暮れは、澄み切った空気の中を刻々と変化していく夕日と天空の色彩に、つい時間を忘れて見とれてしまいます。

1日として同じではない自然の表情と工夫された人間の表現を、リラックスしてご覧いただける「海の見える・ぎやらしい」もぜひ覗いてみてください。

中村昌代



海の道



ぎやらしい風景

連続講演会報告

令和元年度は 「龍馬以外」の幕末の 重要人物5人について

新館に最大120人収容可能なホールができたことを二つのきっかけに、平成30年度に年間5回の講演をシリーズ化した「連続講演会」を開催しました。多くの方にご好評をいただき、今年度も引き続き、昨年同様5人の方の講演会を行いました。今回のテーマは「幕末キーパーソン」、幕末期の重要人物5人を取りあげ、各回1人ずつお話をいただきました。

今回、当館がとりあげた「幕末キーパーソン」は、徳川慶喜、木戸孝允、西郷隆盛、勝海舟、山内容堂の5人。「龍馬は？」「大久保利通が入っていないのはおかしい！」「後藤象二郎はどうした？」等々、様々なご意見があるでしょう。当館でも話し合いをしたときには、他の人物名もあがりました。しかし、幕府側からも…土佐藩も…などを考えた結果、今回の5人に落ち着き、各人物、またはその周辺についての研究をすすめておられる研究者の方の講演が実現したというわけです。（下記表参照）5人の人物はいずれもよく知られた人物ですが、人物や業績紹介にとどまらず、幕末という時代の中での位置づけ、龍馬との関わり、新たな視点からの紹介など、どの講師の方も非常に幅広いお話を展開してくださいました。

今回の連続講演会については、講演録を作成する予定で、現在鋭意編集作業中です。当館にとって初めての試みとなりますが、聴講された方には復習として、聞き逃してしまった方には紙上講演としてご活用いただけます。また、「坂本龍馬記念館の連続講演会ってどんなものかしら？」という方には、「お試し」として活用していただければ、と思います。

博物館での 講演会の楽しみ方

今や、書店に行けば、様々な分野の書籍が一般向けから専門書まで数多く発行されていますし、インターネットでも様々な情報を入手することも可能です。そんな時代にありながら、博物館での講演会は、展示資料や企画展に関係するテーマで開催されるが多く、必ずしも活字化されたりネット配信されるものばかりではありません。講演会は、独自の視点での研究成果を、研究者本人から聞くことができる「ライブ」だと筆者は考えています。疑問や意見を講師に質問する機会もありますし、他の参加者の質問や意見を聞き、「そういう考え方もあるか！と目からうろこが落ちることもあります。聴講後、展示室に行つて改めて資料を眺め、「おお！」と新たな発見をするかもしれません。なにより、先生がどの部分でどんな表情をしたか、客席の

反応はどうだったか等を直に知ることができます。どれも「ライブ」ならではの面白さではないでしょうか。

講演会は歴史、自然史、美術や文学などジャンルを問わず、全国各地、もちろん高知県内でも多くの博物館で開催されています。ぜひ、「わざわざ」「ライブ」感覚で気軽に楽しんでみませんか？（たいてい週末に開催されるので、講演会が重なることも多々ありますので、その点に注意を！）

令和2年度も連続講演会シリーズを開催します。詳細は次号にてお知らせいたします。

「龍馬記念館でしか聞けない講座」をこ期待ください。



2月22日（土）の様子

	月 日	演 題	講 師（敬称略、職名等は講演会時のもの）
1	6月22日（土）	幕末期の徳川慶喜について —山内容堂の存在も視野に入れて—	家近良樹（大阪経済大学特別招聘教授）
2	8月24日（土）	木戸孝允「藩」をこえた近代日本 —坂本龍馬ら土佐との関係を交えて—	齊藤紅葉 （三重大学・大阪教育大学非常勤講師、京都大学大学院法学研究科研究員）
3	10月26日（土）	坂本龍馬と西郷隆盛 —薩長盟約の背景—	落合弘樹（明治大学文学部教授）
4	12月14日（土）	勝海舟と龍馬をめぐる幕臣たち	樋口雄彦（国立歴史民俗博物館教授）
5	2月22日（土）	容堂の言葉 —書状にみる政治観・人生観—	渡部 淳（高知県立高知城歴史博物館館長）

拜啓 龍馬殿

108通

令和元年12月21日〜令和2年3月20日

 りょうまさん。もっと生きてほしかった！私達はあなたがおそれていた外国、アメリカから会いに来ました。あなたの熱い生き方がアメリカ生まれの娘につたわるようにと調べをしてから来たんですよ。ここからながめる美しい海のように娘も美しく生きてほしいと願っています。

(12月28日 N・S 47歳 女性)

 りょうまさんへ。すばらしい所で産まれてすごいわね！日本の事を好きでいいわ。でも33才で亡くなって悲しい。もっと生きれたらどうなっているかな？私はアメリカから来て、ここはおもしろかったです。それではいつかアメリカで会いましょう。

(12月28日 S・S 12歳 女性)

 あなたが勇気を持って土佐を飛びだし、日本を変えるために行動してくれたことに感じやします。あなたがいないれば今の日本はありませんでした。私はあなたの太らかでやさしい性格が大好きです。これからの世界を上から見守っててください。

(12月28日 T・Y 11歳 男性)

 私はここにひとり旅でやってきたことがあります。電車でゆられて7時間かけて龍馬に会いたくてやってきました。「おいしい龍馬」のマンガに出会ってから、大好きになりました。そのマンガを私に教えてくれたのは私の主人です。龍馬のことは私と同じくらい大好きなのに土佐には全く興味がなく、現実あなたが走りまわった日本のことを知らないで大人になってしまったスポーツバカです。今になって少しずつ日本を知りたい気持ちが出てきたので、今回いっしょに龍馬に会いにやってきました。やっと龍馬が本当に日本を走りまわったことを感じたように、時間を忘れてあなたの手紙を読んでいますよ。

(12月28日 T・K 55歳 女性)

 思いやりや優しさを持ちながら、強い志を成し上げた龍馬が大好きです。自分の生まれた意味を考え、動いた龍馬。乙女姉のようなサポートのできる母になりたいと思います。2人の子供が龍馬のような優しい、大きな人になってくれますように。

(12月29日 T・F 41歳 女性)

 私は坂本龍馬殿に憧れて北辰一刀流を習い始めた者です。江戸三大道場と言われるほどの技術

(12月29日 T・F 41歳 女性)

ここは館長の部屋

高松 清之

聖火を待つ「龍馬像」

福島県を皮切りに全国各地が舞台となる東京オリンピックの聖火リレー。高知県では、香川県から引き継いで4月20・21日の両日で県内を巡り、愛媛県にバトンタッチとなるようであるが、本県でのリレーのスタート地点は桂浜の龍馬像、そして、1kmちょっとと距離は短い、最初の区間のゴールは記念館のシェイクハンド龍馬像前とされている。

昨年秋季のある日、このことについての感想を聞きたいと、このことについて、その際、「龍馬は、出自や立場の違いを越えて、人と人をつなぐ、そして自らも人とつながる達人であつたと言われているので、龍馬像は、人の手から手へと聖火をつないでいくリレーのスタート地点に相応しいと思います。」と述べたと記憶している。

また、取材の担当者の方からは、「龍馬の銅像の建設場所が桂浜になったのは、何故でしょうか？」との質問をいただいたので少し調べてみた。桂浜の龍馬像は昭和3年に、当時の高知県の青年たちの募金活動によつて建てられたものだが、その活動の中心となった入交好保さんが、銅像の台座の修復が計画されていた頃に、ある座談会で、「あれを桂浜に建てることも最初からきめていました。アメリカの女神に対照して、太平洋を遠望しながら土佐の名勝桂浜の巖頭に建てなくてはならん、その土地が誰のものであろうと龍馬のために譲って貰わねばならん。」と、建設当時の熱い思いを語られた記事に出会った。

桂浜の太平洋を一望できる場所を選んだのは、米国のニューヨーク湾に立ち、七つの海と七つの大陸に向かって、世界の自由と友好

を祈つて、トーチを高く掲げる「自由の女神像」を意識したものだとのことである。平和の祭典とされるオリンピックでは、開催期間中は戦争や紛争を端休止するという「オリンピック休戦」がある。本県での聖火リレーが龍馬像からスタートすることは、幕末の動乱の中でも、できるだけ戦いを避け、平和的な手法での新しい国づくりをめざした龍馬の姿にオーバーラップすると感じる方も少なくないのではと思う。

なお、文中に引用した入交さんの座談会の記事は、昭和3年に刊行された高知県連合青年団の「団報『銅像建設記念坂本龍馬先生号』」の復刻版として昭和57年12月に発行された「坂本龍馬先生銅像ものがたり」に集録されている。



は自分には難しいですがそこに楽しさを感じ、日々稽古にはげんでおります。偉大なる師範様に少しでも近づけるよう頑張りたいです。

(12月31日) A・T 16歳 女性



高知に産まれ、高知で育ちました。その頃から坂本龍馬は好きでしたが、高知を離れてみて改めて坂本龍馬は凄い人物だったんだとわかりました。あの時、あの場所ですぐに死なずに生きていたらどういう世界になっていたんだろうと思わぬ日はありません。

(1月2日) S・K 38歳 女性



龍馬さん、本日は娘がすごく嬉んでおりました。念願の桂浜と龍馬さん、興奮のあまり、現代で云うオタク(ヲタク)という人間になってしまいました。こんなにも熱心に生きていない人に恋をする娘に私共の心中は少し不安ではありますが、まあ、今は令和ですので、バーチャル恋愛は良いとします。どこぞ、娘に恋文を送りつけてやって下さい。

(1月2日) Y・W 47歳 男性



新年あけましておめでとございます。今年は年男になります。気持ちも新たに前へ進もうと思ひ桂浜へ来ました。海は広く気持ち良く、龍馬さんの思いも伝わってきました。良いと思ったことほとんど取り入れ、行動しようと思ひます。ありがとうございます。

(1月3日) 47歳 男性



高知で育った、私ですが、岡山に嫁に行き、もう10年。今年10歳になる長男は龍馬さんのことがとっても大好き。今日、こうして家族

でここへ来られて、幸せ。龍馬さんについて、いろいろと息子に教わり、知り、あらためて、その行動力、強さ、やさしさに感動。息子にも、龍馬さんのように、大きな人間になってもらいたい。これからもそんな息子を応援していこう。青く広い海を見ながらそう誓います。

(1月4日) E・K 43歳 女性



ぼくは、まだ9才ですがれきしがすきです。ぼく末で一番すきな人物は坂本龍馬さんです。大きいゆめを持つのがカッコいいと思ったからです。高知駅やかつらはまのぞうを見たら「すごいな」と思います。ぼくはこのけしきを見ると、「龍馬もこんなかんじだったのかな」と思います。ぼくも龍馬さんのようにつよくなりたいからけん道をならりたいです。けん道をしながらも、やさしい気持ちをわすれずに龍馬さんのような人になりたいです。

(1月4日) K・K 9歳 男性



大阪から参りました。貴方と同日に生まれたことを嬉しく誇りに思っています。貴方のように世の中を動かすことはできませんが、自分なりに世のためになることが少しでもできるよう日々精進していきます！

(1月13日) K・O 50歳 男性



あなたと出会ったのは小学校6年生の本屋さんでした。高知に旅行へいくことになり、「高知と言ったらこの人だよ」と教えてもらい買った本であなたを知り、その先を見る目、国を思う気持ち、大胆さや行動力が私にはないもので格好良かったです。あなたの行動力のおかげ

げで私は一人で埼玉から高知まで旅行に来れました。大好きで尊敬している「坂本龍馬」と言う人を教科書だけじゃなくもっと沢山知ることが出来ました。私と出会ってくれてありがとうでございます。

(1月21日) R・K 22歳 女性



龍馬さんが夢見た平和な世の中にはまだ遠いのかもけれども、争い事のない世が来る事を私も一緒に願っています。

(1月25日) T・M 45歳 男性



龍馬さん、そして高知から力をもらう為に今回高知に来ました。色々悩んでいて苦しいけれど、高知に来て、龍馬さんを感じて心が少し落ち着きました。龍馬さんのような強さが欲しいです。心を貫き通せる強さ、自分を信じる心が今の私には必要です。いつか高知移住してこの坂本龍馬記念館に毎週のように通いたいです！また、来ます。

(1月30日) T・T 35歳 女性



久々に龍馬に会いに広島より来ました。初めてこの地を訪れたのが、18才の時、時日は流れ今年で還暦を迎えます。あなたの様に生きたい！ただただその思いでがんばってきましたが、自分の生きてきた人生を振り返ると自分の力のなさに後悔するばかりです。とは言え人生80年まだ残された年月をあなたを目指してしっかりと歩んで行きます。目指すは龍馬の様に生きたい！がんばりますよー！

(2月11日) R・T 60歳 男性



関東から、今回初めて高知に来ました。「坂本龍馬」という

人物は言わずもがな存しており、都内で開かれる博物館の企画展示にはよく足を運んでいました。桂浜を経てから拝見するお手紙などは、今までとはまた一味違った感慨の深さでした。今回は父と二人で来館しましたが、次は是非友人と来たいと思います。友人はとも龍馬さんを慕っているの、反応が楽しみです。いわゆる「新撰組のほうが好き」な私が、ここまで感銘を受けているので！笑

(2月17日) A・M 22歳 女性



昨年に続き、再び高知へやって来ました。今回は、娘を伴って父娘2人旅です。桂浜の絶景と貴殿の躍動的な生涯に触れ、喜ぶ娘の姿を見、父としての幸福感に満ちた旅となりました。

(2月17日) K・M 57歳 男性



3歳頃より、龍馬さんに憧れ、自分の気持ちに迷いや悩みがある時は、いつも桂浜にはるばる龍馬さんに会いに来ています。これからも、龍馬さんに元気をもらいに桂浜へ寄りてもらいたいと思います。今年で33才龍馬さんの分まで力一杯精一杯生きていきます。これからもずっと龍馬さんは心の支えです。今日もありがとうございます。

(2月19日) T・Y 32歳



5年程前にこちらに何う予定でありましたが、妻の妊娠と重なり予定が白紙になってしまいました。お陰様で子はすくすくと大きくなり、妻に無理を承知で高知行を懇願したところ許しを得ましたので伺わせて頂きました。貴方様の生き方、目指すものは小さくまとまるこ

となくこの桂浜から見える太平洋の様に広い広い望み、感服致します。自分が少年の頃から憧れていた貴方と気付けば年齢も同じになりました。まだ貴方の様に広い人間にはなれていませんが、今後も貴方の様な強い心を持った人生を歩んでいきたい存じます。また、会いに来ます。今度は家族を連れて。

(2月19日) S・M 34歳 男性



りよう馬さんへ。りよう馬さんを私は小さいころから好きでした。お父さんが好きだったということもあり、れきしについてよく教えてもらっていました。実際に高知に来てりよう馬さんのことを学ぶととても深くてびっくりしました。夢のために自分ではがんばっている所や自分だけでなく日本のこと、世界のために自分の身を粉にしている所を見習いたいと思います。そんなけいしいと思います。私も一度りよう馬さんに会ってみたいかったです。ありがとうございます。

(2月24日) M・H 11歳 女性



土佐という地方から日本全体を視野に入れ、新たな考え、発想力で今後のことを計画されたのは素晴らしいと思います。今の時代、グローバル競争に勝つにはどのようにすべきか、また、地震・台風などの自然災害、新型コロナウイルスやパンデミックの対策をどう計画していくべきか龍馬さんなら色々アイデアを出すことができるのではと思っています。いつの時代も新たな状況が起こるので、それに対応できる発想力、考える力、協力できる仲間が必要だとあらためて感じています。

(2月29日) N・G 56歳 女性

■「幕末の志士人気ベスト10」展 開催16回目の投票結果は？

海の見える・ぎゃういでは4月24日(金)より「幕末の志士人気ベスト10」展を開催します。この展覧会は、当館の入館者アンケートにある「幕末のお気に入りの人物を教えてください」という項目の集計結果を、パネル写真で展示するものです。16回目を迎える今回は、平成31年3月から令和2年2月までの12ヶ月間の集計結果となり、併せて“その理由”も展示します。

平成19年に開催した企画展「幕末写真館」展で、お気に入りの写真を投票いただいた事から入館者アンケートに項目が出来ました。その後、「その理由はどんなところですか?」という人物を選んだ理由項目が追加され、皆さまからもご好評いただく展覧会となり、ほぼ毎年開催するようになりました。

今回の総得票数は4,586票。1位はもちろん不動の「坂本龍馬」2,312票です。その理由には、「ユーモアのある人柄が、手紙の言葉選びから良く伝わって来た。人間味溢れている」「よばいたれから成長し、先を見据えた男らしさが好き」「豪快にして繊細、視野の広さ、自己を消し日本を良くしようと行動したところ」などが挙げられています。2位は昨年と入れ替わり、313票で“西郷隆盛”です。NHK大河ドラマ“西郷どん”の印象が多く見受けられる理由には、「郷土の偉人でありながらも誠実で周りの人を愛す人だったから」「時代を切り拓いた役割を果たしたこと」「昨年大河“西郷どん”でそれぞれの性格、役割が興味深かった」などがあります。そして3位は西郷隆盛と入れ替わり、300票で“ジョン万次郎”となりました。理由には「波乱万丈の人生、日本の夜明けに多大な貢献をしたところ」「英語を学ぶ者として通訳の先がけだから」「偶然のチャンスを大きな夢につなげたところ」などです。写真を見ながら様々な理由を読んでいると、回答者の人物への思いやエピソードが大変興味深く思われ、それぞれの人物像を想像せずにはいられません。ちなみに、今回ランクインされている中には写真のない人物もあり、益々想像が膨らむのではないのでしょうか。

入館者の皆さまの投票が直接ランキングに反映される「幕末の志士人気ベスト10」展、皆さまのお気に入りの人物をぜひ見に行ってください。

尚、本館地下2階には「幕末写真館」として、幕末の人物約130名のパネル写真を、また違った趣で展示してありますのでこちらもご覧ください。

中村 昌代



入館状況

2020年3月20日現在

(1991年11月15日開館以来 28年126日)

◆総入館者数 4,298,648人

◆グランドオープンまで 3,936,760人
(2017年4月1日～2018年4月20日休館)

■グランドオープン(2018年4月21日)以来 361,888人

編集後記

ご承知のとおり、新型コロナウイルスの感染拡大が世界中を震撼させています。「こんな時代に龍馬がいれば…」というのはよく聞く話ですが、このような形で混乱の時代を迎えるなど思いも寄らないことでした。早期の収束を願いつつ、いまだ先の見えない状況で編集を終えたところです。令和2年度第一弾として、幕末という混乱の時代を動かした船を扱う企画展も控えています。「天空海闊」の新年度といきたいところです。(た)

館だより“飛騰”第113号

発行日 2020(令和2)年4月1日

発行 公益財団法人高知県文化財団
高知県立坂本龍馬記念館

(年4回発行) 表紙題字：書家 沢田 明子氏

〒781-0262 高知市浦戸城山830

TEL (088) 841-0001 FAX (088) 841-0015

http://www.ryoma-kinenkan.jp

「飛騰」に対するご意見ご感想などお寄せください

開館時間 9:00～17:00 年中無休

入館料 一般 500円(企画展開催時 700円)

高校生以下無料

高知県・高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)は無料



「飛騰」は郵送料のみのご負担でお届けいたします。購読希望の方は120円切手をご希望回数(4回分まで)お送りください。

〒781-0262 高知市浦戸城山830 高知県立坂本龍馬記念館「飛騰」購読係 まで

私のテーマ

龍馬史料を修理して ～龍馬書簡と血染めの掛け軸



国宝修理装演師連盟 名誉会員
鈴木 裕

私は文化財修理技術者として、長年、国宝重要文化財をはじめとする文化財の修理を行ってきた。

坂本龍馬の手紙と掛け軸

平成27年、29年と続けて坂本龍馬直筆の書簡を修理する機会を得た。坂本龍馬記念館前田由紀枝学芸課長には、何度か工房のある京都国立博物館文化財保存修理所に修理監督のため足を運んでいただいた。書簡本紙(ほんし)＝表装の修理を行う者は絵や書を(こう呼ぶ)の修理方針や、表装(本紙の周囲に取り付けられた裂・軸など)の裂地や軸先を決めていただいた。

150年前の手紙とはいえ同じ日本語なのに、私が断片的にしか読めないことにいら立っていると、さすが前田先生が読んでくださった場面が多々あった。坂本龍馬の手紙は数多くあり、活字になっていると聞いたので、修理に少しでも役立つかと思い、本*を読んでみた。坂本龍馬の生きていた時代や龍馬自身の人柄が伝わってくる。ほのぼのとした印象の手紙の訳文を読んでいるそんな時、ふと思出したことがあった。坂本龍馬に関わるものでこれが初めての修理ではなかったことを。

半世紀近く前のことだ。昭和54年、私が文化財修理という仕事に携わって間もないころ、まだ20代の修理

技術者としてかけだしのころであった。京都国立博物館所蔵坂本龍馬資料一括の修理を先輩技術者の補佐として関わったことがあった。

その中に、誰もが「存じである京都の近江屋で坂本龍馬が惨殺された部屋にかけられていた掛軸、板倉槐堂筆「梅椿図」があった。龍馬の血が飛び散り今も血痕の残る掛軸である。通常の掛軸の修理は本紙を表装部分から取り外し、修理を施し、表装部分は取り替えて新調する。そして次の修理までのおよそ100年～150年の期間、保全と展示に耐えられるようにすることが、一般的な修理のセオリーである。しかし血痕は表層部分にあり表装を取り換えることはできない。この掛軸の文化財たる所以は飛び散って掛軸に付着した血痕にこそある。どちらかという本紙よりも掛軸全体を保全し、後世に伝えることに意味がある。掛軸全体が修理の対象であり、掛け軸全体が文化財である。

掛軸そのものは簡素な紙表具(掛軸の表装部分は通常裂地が多く、茶室にかけられる掛軸や、簡素に仕立てる場合装飾紙などの紙を本紙の周囲

に取り付けることが多くみられる。)であり通常の修理対象と同じく周囲の装飾紙は劣化が進行しており折れたりしている箇所も多くみられた。このままではいずれ朽ちていく。展示できなくなる可能性もある。

掛軸は最低でも2枚から3枚の裏打ち紙によって支えられている。小麦でんぷん糊は水で膨潤させることではがすことができる。掛軸全体を本紙として取り扱う。裏側から掛軸両端に走る亀裂や欠損など損傷の著しい箇所を、部分的に裏打ち紙を剥がし、新しい紙に取り換え補強する。地道に掛軸全体にこの作業を繰り返すことにより、龍馬の血痕跡が残る掛軸は次の修理までの期間皆さんにご覧いただける状態を保つことができた。

背景にある歴史を謙虚な姿勢で

半世紀前に補佐として関わった修理の仕事とはいえ、いまだに記憶に新しいのはなぜだろう。確かに作品の歴史的な存在感というのか、事実をこの掛軸幅が具現化している。今でこそ冷静に淡々とした言葉を並べられるのだが、

当時これが龍馬惨殺を見届けていた掛軸なんだと思うと興奮した記憶がある。しかしそれはこの掛軸を見た人で歴

史を知っている方なら同じように感じることである。

私はその時ははつきりと理解できなかったけれど、今理解できていることがあるとしたら、それは私たち修理技術者は貴重な文化財そのものを未来に引き継ぐために修理をしていると同時に、背景にある歴史そのものを修理しているということである。文化財に直接手を下し、修理を行うものとして、あくまでも作品に対して冷静でストイックで謙虚な姿勢で臨まなければいけない。

そのうえで手を加えるのであれば、まず文化財を含めた歴史に対し謙虚であるべきで、文化財そのものには、現代の余計な情報を付け加えてはいけない。この基本をこの時の修理が教えてくれたと思う。将来この掛軸を鑑賞する人々に掛軸を通して私たちと同じく歴史の事実を受け取ってもらえるような修理をしなければならぬ。すなわち私たちは歴史を修理しているのだ。ということを感じさせてくれた修理がこの掛軸であった。

「修理」と「修復」という言葉遊びをするつもりはないが、歴史を復することはできないし、不可能なことである。修理でよいと思う。「修理」という言葉が私たちの仕事にふさわしい。文化財の本質をとらえ、少しでも長く保存・展示できるように心がけ、意図的な技術は最小限に留め、過度な加飾は控え、そのうえで次の修理の邪魔をしない処置ができれば良いと思う。



血痕の残る掛軸(複製)
＝真物は京都国立博物館所蔵

子どもたちに もっと 龍馬を！

～「龍馬」と「現代」、そして「子どもたち」～

高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会

宮 英司 会長

兄さんの雰囲気や伝えようとしていますが、それによつて龍馬のイメージを損ねようとしているのではなく、子どもたちに「生懸命に頑張れば自分もできるんだ」といったプラスのイメージを抱いてもらいたいと考えています。また、龍馬愚童伝説も強調せず、龍馬は子どもの時は目立たないごく普通の少年だったという程度に留めるようにしています。

——「小中学生の坂本龍馬物語」について聞かせてください。

高知で暮らしているのに、子どもたちは龍馬のことを意外と知らない。このままではいかん……と。そこで、歴史を学習していない小学5年生でもわかる内容にしようという方針を確認し合つて、絵本の雰囲気、物語編を前半につくりました。後半は、大人でも楽しめる資料編としました。表からも裏からも楽しめる本、珍しい資料も満載ということで好評でした。現在は、改版(第9刷)されていますが、少し間違いがあるのが残念です。

間違いといえば、最初の完成版に大きな間違いがあつて真っ青になったことを覚えています。何と、桂浜の龍馬像の写真が裏焼きされていたのです。校正は何度もしたのですが、真つ黒になったコピーで文字ばかりを追いかけていたので写真の間違いには気づきませんでした。印刷屋さんの素早い対応で完璧に修正されました。記念として、希少な間違い本をわが家の家宝(?)としています。(実は、世間に出回つた間違い本は2冊あつて、もう1冊はちょうどお招きしていた大学の先生にお土産にとプレゼントしてしまいました。)

——教科書の「龍馬記述」についていろいろ騒がれた時期がありましたか…。

はじめに

今回は、宮英司会長へのインタビューです。長らく中学校にお勤めだったと聞いています。2017年に現代龍馬学会の会長に就任され、この春から4年目となります。龍馬が教科書にどのように取りあげられてきたか…等の研究を続けてこられました。また、子どもたち向けの「龍馬授業」についても実績十分だとお伺いしています。現在の本務は一宮幼稚園長さんですが、幼稚園の玄関を入つたロビーには園児向けの「龍馬コーナー」を設置されていて、園内では「一宮幼稚園版・坂本龍馬検定」を実施されているとのこと。

なお、2020年度には、全国中学校社会科教育研究大会高知大会が開催されるとのことですが、この大会では、坂本龍馬記念館の三浦夏樹チーフ(学芸担当)が記念講演をし、宮会長は歴史的分野の助言者をされると伺いました。授業は「坂本龍馬」と「自由民権運動」だとお聞きしています。



一宮幼稚園・坂本龍馬コーナー

龍馬を教えるきっかけ

——中学校で、龍馬の特設授業を積み重ねてこられたようですが、龍馬を教えることになったきっかけを聞かせてください。

中学校で社会科を教えていましたが、高知の子どもたちに「もっと、龍馬のことを詳しく教えたい」という気持ちが増え、自分自身が小さいときに読んだ「坂本龍馬」の本に影響を受けていたように思います。新しい歴史を切り拓いてきた龍馬について、教科書だけでは十分に教えられない。ここは高知だから、郷土の先人についてもっと教えてやるべきではないか……。いつもそんなことを考えていました。

高知市教育委員会に勤務していた時に、当時の市長さんが「龍馬都市宣言」をされて、各部署がそれぞれに龍馬に関する施策を練り上げることになり、副読本「小中学生のための坂本龍馬物語」を作成・配布しました。著名な龍馬研究家のご意見を直接いただく機会もあり、大いに勉強させていただきました。(現在も、龍馬記念館等で実費販売されています。)



最後の勤務校では、「中学生版・坂本龍馬検定」を全校で実施しました。また、龍馬の授業を小中学生向けに飛び込みでさせてもらいました。真面目に取り組んだ生徒には、2010年の大河ドラマ「龍馬伝」を楽しく見てもらえたのではないかと思います。そういえば、この年には10回くらい三講演会の講師として、いろんなところで龍馬のお話をする機会をいただきました。

——子どもたちに龍馬を教える時、どんなことに気をつけていますか？

龍馬の業績を詳しく教え過ぎないように気をつけています。龍馬が好きになつて、身近な図書を開いたら自力で簡単に理解できるからです。それよりも、全国にある龍馬像の紹介に時間を割いています。北海道から鹿児島までスライドを使って見たい所はまだ龍馬の銅像ができていない所だらう……と。

この銅像ですが、「宮尊徳を別格にする」と、歴史上の人物の中では龍馬が一番多いですね。昭和期は多いのは板垣退助でした。(板垣が5体で龍馬が4体でした。)平成になつてから、急激に龍馬像が増えつた。新たな観光スポットに……というねらいがあつたかも知れませんが、それにしても、なぜ、龍馬なのか……と子どもたちに聞かれます。

子どもたちからは自然と答えが出てきます。「他の人ができないことをしたから」「まわりの人に好かれてるから」「人気があるから」「新しい日本をつくらつたから」等々。どれも

馬と手紙、④龍馬と女性たち、⑤二度だけの帰郷、⑥龍馬暗殺犯に迫るタイトルとしては「坂本龍馬講座」お孫さんや子どもさんへの教え方」として使います。龍馬の教え方については(小中学生に教えるに際しては)少し自信があります。それを参加者にお伝えすることで、家族の団欒の場で活用していただけたら……と夢のようなことを考えています。

——現代龍馬学会の皆様へ一言お願いします。

会長になつて改めて考えています。現代龍馬学会はどこへ向かうのか……。結構、難しい課題でした。でも、次第に難しく考え過ぎないようにになりました。そして、龍馬記念館の「企画展」や「幕末写真館」に学びつつ、わからないことは学芸員さんへ質問し、館主催の「連続講演会」で刺激を受け、勉強させていただいています。

会員のみなさんには「龍馬のひろば」でいろんなご意見が寄せられることを期待しています。それによつて会が活性化していくと思うからです。また、隔月で実施している例会へのご参加を呼び掛けたいと思います。2019年は、会の重鎮である渋谷雅之先生の「いろは丸始末」が5回開催され、これまでの通説を覆す切込みがたくさんあり、圧倒されました。(例会は、原則として偶数月の第3土曜日の午後2時半から、新館ホールで開催されています。詳細は事務局へその都度確認してください。)

①龍馬と銅像、②龍馬と写真、③龍

正しい訳です。「よく考えたね」と誉めてあげます。この時、子どもたちは龍馬の入りの口から、すでに2、3歩入つてきていると思います。なぜ、そこに銅像ができたかを話してあげること、龍馬の世界が広がっていきます。

視覚で訴えアラスのイメージを

——館としても、様々な形で龍馬の出前授業をしています。子どもたち向けの授業の時に、どんな工夫をしていますか？

先程来お話してきたことですが、歴史に関心のない子どもたちもいるので、社会科の話に深入りしないことでしょうか。龍馬の業績について簡単に触れたうえで、銅像・写真・手紙の紹介へと移っていきます。写真も、当時の人としては驚くほどの枚数が残っていることや未だに新発見が続く手紙のことなどを話すと子どもたちは身を乗り出してきますね。

それと、できるだけ視覚に訴えるようにしています。難しい話だな、と思われると頭に入らなくなるので写真やミニチュアの銅像を教室へ持ち込んでいます。実物が一番ですが、実物に最も近い雰囲気のあるもので、龍馬とその時代を感じ取ってほしいと願っています。

——子どもたちへ龍馬を伝える際の視点として、大切にしていることは…？

スーパーマンのような龍馬にせず、高知のどこにでもあるようなお

を現代に活かすためにはどうすればいいか……。について、ともに意見交換をしていきます。そして、史実と小説の隙間を埋めていきながら、お互いに楽しみつつ集いあつていきます。さらに、子どもたちに龍馬の生き方を正しく伝えていくことにも力を注いでいきます。ここまでお話してきたことによつて、本会のキーワードを「龍馬」と「現代」そして「子どもたち」と考えていこうと思うようになりました。みなさんのご意見をお聞かせください。

宮 英司 (みや えいじ)

高知市生まれ。

高知大学大学院修士課程修了。

高知県の中学校で社会科教師として

教壇に立つ。14年(潮江中・旭中)

高知市教育委員会に勤務。15年(教

育研究所・学校教育課・学事課)

高知県の中学校で校長として勤務。

8年(横浜中・青柳中・伊野南中)

現在 高知県立坂本龍馬記念館・

現代龍馬学会 会長

高知市立寺田寅彦記念館友の会副会長

高知大学教育学部 非常勤講師

認定こども園 一宮幼稚園 園長

日本教育新聞社 四国版編集委員

著書

「小中学生のための坂本龍馬物語」

高知市教育委員会 発行(共著)

「NEW放送教育」

日本放送教育協会 発行(共著)

「寺田寅彦銅像物語」

寺田寅彦記念館友の会 発行

物語の歴史性

宮川 禎一

むかし、東京上野の鈴木演芸場で聴いた落語「幾代餅」のこと。若くて働き者の搗米屋の職人清蔵が錦絵に描かれた美人の花魁、幾代太夫に一目惚れして恋しい。親方は辛抱して一年働いて給金を貯めたら吉原につれて行ってやるなどとその場しのぎを言うものだから、清蔵は懸命に働いて、一年後、貯めた十五両もの大金を持って吉原に行き、なんとか幾代太夫に会って……いろいろあって結ばれて、夫婦で始めた餅屋が大繁盛でめでたいかぎりという筈だ。氏素性や社会的立場を超えた純愛の物語だ。作り話の中でだけ存在するピュアな恋愛だからこそ聴衆に支持されてきたのだと思っていた。

ところが最近、江戸時代の旅日記の解説文を読んでいたら文化十四年(一八一七)の江戸両国に「幾代餅」を売る店が実在していたので驚いた(金森敦子『きよのさんと歩く江戸六百里』二〇〇六年)。落語はまさかの実話だったのだ。幾代太夫がはじめた餅屋は元禄時代とされるので百年を超えて幾代餅が売られていたことになる。

歴史はどんなに冷静に記述しようとも「物語性」を帯びている。事実だけを淡々と書くことは難



今も墨田区で売られている「幾代餅」。吉良邸跡横の「両国 縁処」で。

会員の皆様へ

大募集!!

月例会発表者・会報執筆者



待ちう
ぜよ!

当会では偶数月に会員様にご研究を発表していただき、皆様と気軽に勉強をする月例会を行っております。会員の皆様の中にも日頃のご研究の成果をお持ちの方がたくさんおられるのではないのでしょうか?その成果を月例会にて是非発表いただきお聞かせ願いたいと思います。全

然堅苦しいものではありません。

渋谷雅之副会長のお言葉をお借りしますと「龍馬が残したものを現代に活かすために、歴史学者と一般の歴史愛好者が手を取り合って、ワイワイガヤガヤ楽しく勉強をしよう」というものです。

また、会場である坂本龍馬記念館になかなか来ることのできない会員様には、会報の「私のテーマ」などで発表いただけます。「話してみるかよ」「コラム・



2019年10月例会の様子。発表者：渋谷雅之氏

龍馬のこと」へは皆様の身の回りのお話や龍馬への思いなど、ほっこりするお話もお待ちしております。皆さまお気軽に事務局までお寄せください。

- 例会発表は1時間を目標にしております。(原則、偶数月第3土曜日 14:30~)
- 会報「私のテーマ」1,600字「コラム・龍馬のこと」「話してみるかよ」写真1点+600字 写真なし700字
- ※今回のみ「第12回研究発表会」のご案内と「例会発表者・会報執筆者募集」

第12回

高知県立坂本龍馬記念館 現代龍馬学会 研究発表会

テーマ 「龍馬の思想と行動」

日時 2020年5月23日(土) 10:00~17:20(会員総会9:20~)

会場 高知県立坂本龍馬記念館 新館ホール

定員 100名(参加無料・要申込)

【研究発表】

10:10~ 網屋 喜行氏(鹿児島県立短期大学名誉教授(「吉田」本家末裔)「石尾芳久氏の『海南政典』研究とM.ウェーバーの『官僚制論』」

11:10~ 山本 修氏(株式会社便利堂 コロタイプ研究所所長)

「コロタイプ技術で龍馬の手紙を複製する
~100年以上前から続く古い写真印刷技術の話~」

【特別講演】

13:30~ 大石 学氏(日本芸術文化振興会 監事)

「坂本龍馬の現代的意義」

【研究発表】

15:10~ 坂本 世津夫氏(国立大学法人愛媛大学 社会連携推進機構教授「地域連携コーディネーター」)
「明智光秀と龍馬」

16:10~ 前田 由紀枝氏(高知県立坂本龍馬記念館 学芸課長)

「『新葉和歌集』を手がかりに龍馬の思想と歌心を考える」

参加ご希望の方は現代龍馬学会事務局までお申込みください。

【お申込み・お問合わせ】

高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会事務局

電話 088-841-0001 F A X 088-841-0015

MAIL gendai-ryoma@kochi-bunkazaidan.or.jp

高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会
〒781-0262 高知市浦戸城山 830

TEL (088) 841-0001 FAX (088) 841-0015
mail:gendai-ryoma@kochi-bunkazaidan.or.jp